

氏名	小野 展克		
学位の種類	博士（経営管理）		
学位記番号	博乙第一号		
学位授与年月日	平成 28 年 9 月 16 日		
学位授与の要件	嘉悦大学学位規程第 6 条		
学位論文名	経済ジャーナリズムと企業破綻 ～新聞記事はどう経営危機を伝えたか～		
論文審査委員	主査教授 跡田 直澄	副査教授 高橋 洋一	
	副査教授 竹中 平蔵		

### 論文審査の結果の要旨

本論文は、わが国において、ジャーナリズムが企業破綻をどのように報じたかについて、定量的に分析したものである。内容的には、地道な研究を積み重ねており、また論理性及び独自性の点からも高く評価できる。

本論文の学術的な意義としては、以下の 2 点を指摘できる。第一は、明治期から現代に至るまで、丹念に事実関係を整理し、時系列的な変化を捉えられている点である。本論文は、明治初期の小野組の破綻報道の分析から始まり、昭和金融恐慌、高度経済成長期、オイルショック期、バブル崩壊期そして現代と、長期間にわたる事例を分析対象としている。それぞれの事例に対する定性的分析はこれまでも行われているが、ここまで俯瞰的にジャーナリズムを捉えた上での定量的分析は本邦初の試みである。また、企業破綻報道に対するジャーナリズムの特徴を異なる時点での比較分析によって明らかにしている点も、長期の時系列的な分析を行えばこそ得られるものである。

第二は、テキストマイニング手法を活用した定量的分析を試みており、ジャーナリズム論と情報科学さらには公共経営論にも関係した学際的研究として位置づけることができる点である。テキストマイニング手法は、自然科学系研究を中心に様々な分野で応用されてきているが、社会科学系研究や人文科学系研究においてはまだ十分に応用されているとは言い難い。ジャーナリズム研究においては、本論文が先駆けてテキストマイニングを応用した研究といえ、今後の同様な研究の嚆矢となる研究と位置づけられよう。

今後の研究の展開に期待する点としては、第一には政策的にもより有効な議論の展開である。例えば、2000 年代以降に改革が進んだ倒産法制については、本論文の成果からどのようなインプリケーションが得られるだろうか。本論文は、ジャーナリズムの有り様だけでなく、企業活動や企業政策にも有益な示唆を与えうると考えられる。第二には、本論文の意義づけという点であり、特に海外の研究とのより一層の関連づけは今後期待したい

ところである。

本論文は、学術的、実務的に卓越した研究であると同時に、上述したような発展性もあわせもった研究といえる。以上の点から、本論文は本学の「経営管理」の博士号授与に十分な資格を有していると判断できる。